

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日 2019年 1月 10日	
派遣プログラム	<input type="checkbox"/> HUSA <input type="checkbox"/> USAC <input checked="" type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	デラサール大学ダスマリニャス校 (国名：フィリピン)
所属学部・学科等名	Political Science, College of Liberal Arts and Communication
在籍身分	Exchange student
留学期間	2018年 8月 5日～ 2018年 12月 20日

### 1. 留学するまで

留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	1年の時に短期の留学を経験し、その時にもっと長い期間で留学してみたいと思ったため。元々、語学力向上を主な目的とした留学を行いたいと思っており、渡航前非常に英語力の低かった私にはどこかいいのが検討した結果、フィリピンが最適であるとの結論に達した。人が非常にフレンドリーで、英語が第二言語として広く浸透している国であることが大きな理由であった。
留学準備を始めた時期（応募する何か月前ですか？）	1年生の冬ごろには長めの留学に応募する意思が固まっていたため、情報収集や国際交流イベントへの参加、英語の継続的な学習などを準備として始めていた。2年の夏に TOEFL を受けたため、その直前は特に力を入れていた。
事前準備について（どのような準備をしたか、しておけばよかったか）	英語を学習していたとはいえ、死ぬほど真剣にやれていたかといえばそうではなく、行けば何とかなるだろう精神が常にあった。バイトやサークル、学部行事などを存分に楽しんだ結果、やはり準備が足りておらず、渡航直後はコミュニケーションをとることに非常に苦労した。 結局それでもなんとかなった。しかし当たり前のことではあるが、仮にもっと事前に大学等で外国人とたくさん会話して英会話に慣れた状態で渡航できていたら、この5か月はより有意義なものになっていたかもしれない。 また、留学中に海外の人と話す中で、日本に関する知識の必要性を感じた。多くの人が日本に興味を持ってくれて様々な質問を投げかけてくるため、歴史や地理、政治や文化などたくさんの分野のことを学んでおくとい。特にこの大学には自分が在籍していた1セメスターの間にはほかの日本人学生はいなかったため、日本人の代表として日本に関するのことを外国の人たちに伝えていく必要性があった。初日から次々とそういった場面に遭遇したので、事前の準備があると、焦らずに語る事ができてよいだろうと思う。

### 2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類：観光ビザ（期間中に3回延長の手続きを行った）+ SSP
	ビザ申請先：日本では何も手続きは行わず、全て現地の immigration で行った。（大学のスタッフのサポートあり）
	提出書類： 派遣先大学からの指示に従っていれば問題ない。 実際に何を提出したかというところは正確には覚えていない。
	手続きに要した日数：国内では何もしていない。現地ではビザの延長やI card 受け取りなどを含め5～6回ほど immigration を訪れた。（大学から30～60分のモール内にある）
その他必要な事前手続き	派遣先大学のスタッフによるサポートもあり、現地で何も問題なくできたため、特に事前手続きは必要ないのではないかとと思う。

出 国 年 月 日	2018年 8月 5日
経 路 ( 往 路 )	福岡空港→マニラ空港→ダスマリニャスの大学へ (大学スタッフの車で)
現 地 で の 出 迎 え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者による) <input type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (期間: 2日間 内容: 担当者たちとの交流、他の交換留学生との顔合わせ、履修登録、キャンパスツアー 等々) <input type="checkbox"/> 無
帰 国 年 月 日	2019年 12月 29日
経 路 ( 復 路 )	マニラ空港→台湾桃園国際空港 (4日間の台湾観光) →福岡空港

### 3. 留学費用について

支出額	総額	約 40万5千	円
内訳	渡航費 (往復)	60000	円
	ビザ申請手数料	40000	円
	予防接種費用	0	円
	保険料	50000	円
	教材費 (授業料以外の学費)	0	円
	宿舍費 (住居費)	0	円
	光熱費	0	円
	食費	0	円
	通信費 (インターネット・携帯)	10000	円
	交通費 (宿舍-大学間)	0	円
	交際費	220000	円
	その他 (英語個別授業費)	25000	円
( 費)		円	
( 費)		円	

### 4. 授業・修学について

授業の概要について (カリキュラム, プログラム, 履修した科目, 時間数, 履修形態等)	所属学部である College of Liberal Arts and Communication の専門科目を 3 科目 9 単位。(本来は 4 科目を求められていたが、学内の語学センターで個別講座を受けると渡航 1 か月後に決め、その際に派遣先大学の国際交流グループと相談の上 1 科目減らした。)  英語チュートリアルクラス (30hours)。←別途費用が必要
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてのアドバイス (留学前の履修, 留学中, 単位取得等)	英語での専門的な講義に慣れていないと、授業では非常に苦しむ。(※フィリピンの学生たちはリスニングに関してはほぼネイティブレベル/スピーキングも専門的内容の議論に不自由はしないレベル) そのため広島大学で渡航前に英語のみの授業をいくつか経験しておく とよい。 また、単位互換はうまく使えば非常に便利な制度だが、あまり考えすぎない方がいいというのが個人的な意見。なぜなら単位互換するとなると科目が非常に絞られてしまうからである。実際、3 年時に渡航した私の場合、すでに多くの科目を取り終わっており、単位互換が可能なのはごく少数の科目であり、正直興味のないものも含まれていた。結局単位互換することを優先して考えて選んだ結果、留学中に多少の後悔の念が生まれた。 現地での単位取得に関してはそこまで心配し過ぎる必要はないといえる。もちろん授業をさ

	<p>ぼったり遅れたり、提出物や課題をおろそかにすればどうなるかわからない。 語学力のハンディキャップがあることは教授もわかってくれるため、やる気と真剣な姿勢で授業に取り組みばそれなりによい成績をもらえるだろう。また、生徒は皆、優しすぎるのではないかと思うほど優しい。これがフィリピンの良さの一つでもあるのだが、困ったことがあれば、誰に何を聞いても親切な答えが返ってくるといった体感であった。授業・勉強で困ったときはとにかく ask! ask! ask!!!!!!!</p>
日本と異なる授業形態などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生の関係性など）	<p>この大学には、日本の大学のような大きな講義室でたくさんの学生が同時に受けるような授業は皆無であった。どの科目も高校のクラスぐらいの教室の大きさと学生数で、教授と生徒の距離感は非常に近かった。課題や小テストなどは頻繁に行われる。 この大学全体として留学生の数は多くなく、授業によっては留学生ということで意見を求められることが多々あった。ぼーっとしている暇はない。 グループワークも自分の受けたすべての授業で行われた。積極的にグループの活動に取り組む姿勢を見せないと、皆タガログ語で話し出して一人取り残されることになるため、臆せず質問・発言等をするべきである。</p>

## 5. 生活等について

### (1) 留学先の住居について

住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他 (       )	
住居の広さ	約 18 m <sup>2</sup>	同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 2 人 ) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (人数分の勉強机、ベッド、棚、クローゼット、扇風機、冷蔵庫)	
住居費	1ヶ月当たり	(現地通貨)        約        0        円
留学先での住居全般に関するアドバイス	<p>日本での生活しか経験したことのない人であれば最初は慣れるまで時間がかかるのは間違いない。ゴキブリを頻繁に目撃したり、部屋の中にアリの巣があったり、衝撃を受ける出来事に出会うことは少なくない。加えて毎日冷水でシャワーを浴びることになるので、そこは多少ストレスになる。(朝夜は予想してたほど暑くない! 冷水シャワー結構しんどい! (笑)) また、ルームメイトが必ず1~2人おり、仕切り等も特にないため、プライバシーはまあ存在しない。加えて、門限が9時というのは驚きであった。</p> <p>上記の、私が5か月過ごした大学の寮は、交換留学生には無料で提供される。気に入らなければ自費で大学の周りのコンドミニウムを選んでもよく、その際大学に紹介はしてもらえる。実際にヨーロッパからの交換留学生たちは1週間ほどの滞在ののち、大学から10~15分の距離にあるきれいなコンドミニウムに移動した。こちらもお金がかかるとはいっても月に8000円ほどの家賃で、温水シャワー付きの2人部屋でキッチンもついており、快適な暮らしを求るのであればそちらに移るのも手ではあると思う。</p> <p>しかし私は大学の寮を強くおすすめしたい。(清潔感やプライバシーの問題が気にならない人であればという条件付きではあるが、、笑) 女子寮のことはよくわからないため、男子寮に限った話にはなるが、寮に住んでいる学生同士はとても仲が良く、留学生にも興味をもってたくさん話しかけてくれる。私はこの寮で、ルームメイトのみならず多くのかけがえのない友人を作ることができた。門限が9時というのはとてもつらかったが、寮の中で毎晩のように集まって話したり遊んだりしたのは非常にいい思い出である。また、全員がいい英語の先生であったように感じる。</p>	
(2) 医療について		

<p>保険の加入先</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 本学指定の保険    <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険    <input type="checkbox"/> その他 (                    )</p>
<p>保険の補償内容</p>	<p>補償額 死亡 100万 円、 障害後遺障害 100万 円 その他 (航空機遅延費用 2万円 委託手荷物遅延 10万円 等々                    )</p>
<p>留学前後での予防接種の必要の有無</p>	<p><input type="checkbox"/> 有 (種類:                    回数:                    医療機関名:                    ) <input checked="" type="checkbox"/> 無 (本当は必要かもしれないが、する時間がなかった)</p>
<p>留学先国の医療事情 (日本と比較して)</p>	<p>病院に一度も訪れなかったため、詳しくはわかりかねる。 日本と比較すれば、発展途上国であるフィリピンの医療事情はまだまだ整っているとは言えないのではないだろうか (インフラ面が悲惨なありさまであったため、そのイメージからの私の偏見かもしれない)。 大学内のクリニックは親切な対応でよかった。なにかあればまずはそこを訪れてみるという。</p>
<p>留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと</p>	<p>まず第一に、熱中症に気を付けなければならない。知っての通りフィリピンは年中高温である。また、外は気温が高いのに対して、室内は信じられないほど寒い。フィリピン人はエアコンの温度をこれでもかというほど下げるため、この気温差に気分が悪くなることが多々あった。</p> <p>また公共交通機関の運転は非常に荒く、酔いやすい人が遠出する際には酔い止めが必須である。</p> <p>もう一つ気を付けなければならないのが水と食べ物。東南アジアなどの途上国に渡航する際には、水道水を口に含んではならないのはもちろんのこと、レストラン等の水もおなかを下す原因になることがあるため気を付けるべきである。私は常にペットボトルの水を携帯し (500ml 30~40 円ほど)、部屋にも大きめのミネラルウォーターを置いておき、歯磨きにもそれを使用していた。</p> <p>またフィリピンでは、道を歩くとたくさんの屋台があり、その匂いとリーズナブルな値段に誘惑されることは多くある。が、こういった屋台は質の悪い氷や油を使っていることが多いらしく、現地の友達もあまり食べすぎないほうがいいと注意をしてくれた。(味はおいしいものはかりなので時々チャレンジするのはアリ!!!)</p> <p>これらに気を付けた結果、おなかを壊すことはなかったため、参考になると思う。(もちろん個人差はアリ!)</p>
<p>(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと</p>	
<p>5か月間の生活で、何か犯罪に巻き込まれるということは特になかった。現地の学生たちは口をそろえて首都のマニラは比較的危ないと言っていた。</p> <p>学校やモール、またレストランでさえ警備員が配置されており、安心感はあった。(銃を持っている警察官が巡回している場所も多く、緊張することもあったが、)</p> <p>屋は道沿いに人がたくさんいて賑やかであるため、小道に入らない限りそこまで心配することはない。スリは多いと聞くため、基本リュックは前にし、持ち物には常に気を配らなければならない。</p> <p>夜に外を出歩くのはもちろんおすすめしない。</p> <p>乗り物の運転がとにかく荒いため、交通事故に細心の注意を払わなければならない。渡航期間中に、大学の生徒が大学近くで車と接触して亡くなるという出来事があった。右見て左見て。基本をしっかりと。</p> <p>また、誰でもわかることだが、高価なアクセサリや時計、ブランド物などは持ち歩くべきでない。というかこの国に持って来るべきではない。ただでさえ外国人ということで標的になりやすいのだから、さらに狙われるようなことをしてはならない。まだまだフィリピン国内の貧富の差は深刻な問題であることを忘れてはならない。</p>	
<p>(4) 食生活についてのアドバイス</p>	
<p>大きな問題になるのはお米が好きかどうか。フィリピン人は朝昼晩、ほぼ毎食お米を食べる。その量もなかなかのものである。おかずもご飯に会うようなものが多く、ご飯をそこまで得意としていない人は、フィリピンの食を楽しむことが難しいかもしれない。逆に私のようなお米派の人なら存分に楽しめる。お米の質も思っていたより悪くなかった (場所による)。チキンはとてもおいしいが、牛肉はおいしいとは思えなかった。</p>	

おすすめのフィリピン料理は、シシグ、アドボ、ロミ、チャプスイ等々。その他たくさんあるため、恐れず試すべし！

また、栄養をどうやって取るかを常に考えなければならない。フィリピン人は野菜をほとんど食べない。大学内に大きなフードコートがあって毎日利用していたのだが、野菜が食べられるところは限られていて、それがどこにあるかを把握して、なくなるまえに入手しなければならなかった。

フルーツはスーパーや市場で買ったものを丸かじりすればいいため、野菜に比べて摂取しやすい。常に部屋の冷蔵庫に何種類かのフルーツを置いていた。

それでも不安であったため、私の場合は日本からDHCのビタミンサプリメントを120日分持ってきており、ほぼ毎日摂取した。(ただの自己満ではあるが、「体にいいものを取り入れている～」と気分はよかった。)

個人的におすすめなのはヤクルト。5本で100円ほどで、調べたところ日本のヤクルトの約半額！というわけで、味も同じで体にも良いので、これも常備していた。

#### (5) 気候・服装についてのアドバイス

上の健康管理のところでも書いたように、気温は常に高く30℃ぐらい。室内はどこも寒く、カフェなども凍えるような寒さ。そのため、常に荷物に羽織ることができるものを持ち歩く必要がある。今思えば、UNIQLOのウルトラライトダウンを一つ持ってきていれば、軽さと暖かさの面で大きな助けになっていたのではないかと思う。私は、長そでのスウェットとその上に羽織るMA-1を常に持ち歩き、非常に不便であった。

また、暑いとはいえ、カトリックの大学であるデラサールでは服装についてのルールが多く、それに従わなければならない。正直、外国人ということで大目に見てもらえることはあるのだが、そこはしっかりと守って、日本人の恥にならないようにするべきであろう。基本的に授業のある日は、学校内でのサンダルや短パン、女子の短いスカートや肩だしも禁止されている。

#### (6) 学内外の施設・設備環境について(インターネット環境含む)

学校内のオーバルと呼ばれる運動場は空いていれば自由に使うことができた。陸上トラック、プールなども使用は自由。何かしたいスポーツがあればInternational linkage Officeや友達に尋ねてみるとよい。だいたいのは可能である。学内には大きなフードコートが一つと、それ以外にも食堂やカフェが所々にある。道々にあるような屋台が学内にも少しあって、こちらの方は信頼性が高いようだったので頻りに利用していた。おすすめはkwek kwekという小さな卵をオレンジ色の衣で揚げたもの。授業終わりによく食べていた。(30~60円)

学校の目の前にはセブンイレブンや学生向けの安い飲食店が並んでおり、基本ご飯をどこで食べるか困るということはない。しかし日曜日には個人経営の店はほとんど開いていないので注意が必要。

ジブニーを乗りこなせるようになれば移動は安く便利。ジブニーで5~10分のところにスーパーとファストフード店、30~60ほどのところに大きなモール。ここには映画館を含め、何でもそろっている。

インターネット。これは、道路の渋滞と並びフィリピンでの二大ストレスであった。学内に一応WiFiはあるが、日本と比べてしまうとそれはひどいものであった。一週間ほど学内の電力がストップした時があり、Wi-Fiもなく絶望した。学外でWi-Fiがあるところは少なく、スターバックスやマクドナルド等にも期待したが配備されていなかった。学外でネット環境を得たい場合には、コンピューターショップがどこにでもあるため、そちらを利用しなければならないかもしれない。

私の提案としては、空港でsimカードを購入した際に、データ無制限のものにしておくこと。一日800MBを超えると制限モードにはなるが、動画を観続けたりしない限りそれを使い切ることはいらないだろう。私はスターバックスなどで、iPhoneからのテザリングでパソコンを利用していた。SMARTという会社のSIMカードで、五か月一万円で毎日無制限に使えたのでとても便利でリーズナブルであった。

#### (7) 現地学生や地域との交流について(どのような、機会・きっかけがありましたか?)

交流の機会は数えきれないほどあって書ききるの難しい。日本人がいない大学なので、多くの学生が興味をもって近寄ってきてくれる。寮・クラスはもちろん、学部対抗のスポーツフェスティバルでも多くの友人ができた。また外国籍の学生の団体があり、そこでのイベントに参加したり、LSAという留学生を積極的にサポートしてくれる学生サークルの学生たちが毎日のように連絡をくれてイベントに誘ってくれたりもした。臆せずすべてにチャレンジしてみた結果、次第に友

<p>人の輪も広がって、留学後半は校内中に知り合いができて、毎日挨拶したり会話したりして楽しかった。</p> <p>学校の周りの良いく飲食店の店員や、ランドリーの店員などと毎回短い会話を交わすことで、学校の外にも多くの知り合いができた。</p>
<p>(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと</p> <p>日本のように年齢が重視される文化がないため、年上年下をあまりに気にしすぎると逆にコミュニケーションがぎくしゃくするかもしれない。相手を気遣い本音を隠すといった日本独特のものも過度におこなってはならない。何事にも日本の文化を引きずらず、空気を読んで周りに合わせていくことが重要だろう。</p>
<p>(9) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの</p> <p>上の服装のところで述べたように軽くて持ち運びの簡単な上着は必須。ウェットティッシュはなかなか売っていないのであると便利。日本の薬、また体温計もあるといい。(長くいれば必ず原因不明の体調不良に襲われる→私の場合、程度の差はあるけれど、月に一回は咳が出たり熱が出たりした)</p> <p>歯ブラシは日本のものをもっていくべき。現地のは何かが違う。</p> <p>日本のお土産。100均で日本風のを大量に買って持っていけば、それなりに喜んでもらえる。</p> <p>旅行用の小さなドライヤーを持っているひとは持っていくといいかもしれない。フィリピンではあまり使われておらず、寮の友人で使っている人は一人もいなかったため、私は現地で1500円ほどで購入した。</p> <p>シャンプーや洗剤などは長い留学だともおくなるため、相当なこだわりがない限りは持っていかなくてよい。フィリピンでもたくさんの種類があって、自分に合ったものを選ぶことは可能。</p> <p>高価なもの(時計、アクセサリ、財布)などは持っていくべきではない。スマホ、パソコン、カメラなど自分が必要と思う高価なもの以外は日本においてくるべき。</p> <p>スーツ。かさばる荷物であったが、着る機会はなかった。おそらくあったとしても、借りることは可能であろうし、留学生ということで免除されるだろう。</p>
<p>(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス</p> <p>日本に比べればいろいろと不便な点も多いが、スーパーやモールで大抵のものは手に入るし、尋ねれば誰かがこたえてくれる。様々な場所でいろいろな人に話しかけてみると、英語の勉強にもなるし、何より楽しい。フィリピンでの生活に関して過度な心配はいらない。</p>

6. 帰国後の進路について	
卒業予定年月	2021 年 3月 (当初の卒業予定年月 2020年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他(この5か月で得たものを生かして、海外でまた別の経験をしたいと思ったから)
現在の状況および今後の予定・進路等	3年終了時点で卒業単位は取り終わる予定。(単位互換含め) 1年間休学し、更なる海外体験や資格試験の勉強、就職活動に時間をかけて取り組む。 卒業後は民間企業に就職予定。
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	他の学部のことはわかりかねるが、法学部や経済学部などの文系学部所属であれば、渡航までの間に単位をおおよそ取りきって、予定通りの就活や卒業は可能。無理に多くとる必要もなく、毎学期制限ぎりぎりの単位数でそれを落とすことがなければよい。

7. 留学準備、留学中に役立った書籍、ウェブサイト等
----------------------------

書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
使える英語だけ覚えなさい!	西東社	英会話はここにある簡単なフレーズでなんとかなる!
CNN	<a href="https://www.cnn.co.jp/">https://www.cnn.co.jp/</a>	世界のニュースに敏感に!
TED	<a href="https://www.ted.com/#/">https://www.ted.com/#/</a>	世界の賢い人の話は面白い! +リスニング力UP!

## 8. 後輩へのメッセージ

フィリピンでの留学は、みんなが憧れるような、想像するようなおしゃれな留学とは少し違うかもしれない。でも、最高に楽しくて、実りのある留学になることは間違いない! その理由は人! みんなも行って見たらわかる。時間は決して守らないし、テキトーなフィリピン人だけど、関わったらその魅力に気づくはず!

英語に自信がない、だけど留学がしたいという人には特におすすめ。小さなころから第二言語として英語を学んできたフィリピン人たちの英語は文法がとてもきれいだし、ネイティブほど早く喋らないし、多少の訛りに慣れるととても聞き取りやすい! 何よりフレンドリーなフィリピン人たちとの生活は楽しくてたまらなくて、いつの間にか英語力も伸びる!!

日本とは近いのに文化が全く違って面白い。そこで暮らせば視野がぐっと広がる! とにかく行ってみて!!!!

### 9. 自由記述 (1,200 字程度)

五か月を終えてまず思うのは、この五か月が本当にあつという間に過ぎたということである。毎日が本当に充実していて、留学中に何度も「ここに来てよかった」という風に思えたので、留学中の細かい失敗や後悔はあるものの、ひとまず今回の留学は大成功であったといえるのではないだろうか。フィリピン人はもちろん、ヨーロッパやアフリカ、アジアの様々な国々の人と会話し、一緒に何かをして刺激を受け、視野が広がり、大きく成長できたと感じている。

授業では日本とは違う形式を楽しみながら様々なことを学び、その他にも環境問題に関するイベントやスポーツイベント、カトリックに関する講義など、数えきれないほどの経験をした五か月であったが、最も印象に残っているのは学校の外での一つの体験だ。フランスとスペインからの留学生とともに連休を使ってした旅である。二人と様々な会話をしながら、雄大な自然の中にある世界遺産周辺を散策した。2人は私とそう年も変わらないが、知的好奇心と冒険心に溢れており、アクティブでエネルギッシュで、心から尊敬できる友人たちであった。この旅の間、今まで日本で怠けてきた自分の情けなさを実感しながらも、「僕もやれる、まだこれから努力すればこの人たちみたいになれる」というポジティブな気持ちでいることができたのは、2人が私の良い部分を褒めてくれ、ステップアップにむけたアドバイスをくれたからである。大学でも会って話すことはよくあったが、この旅の時にさらに固い友情が生まれ、深い話もしたため、思い出深い数日間であったといえる。

また、留学の成果として、まずは日常会話レベルの英語を身につけるという目標を達成できたことに満足している。日本人一人という環境に身を置いたことで、初めは何もうまくいかず、絶望するといったこともあったが、その苦しい時期を乗り越えたことで語学力の面はもちろん、精神的にも強くなったと感じる。

大きく変わったのは学修や将来に対する意識かもしれない。フィリピンには学校に行きたくても行けないような人がまだまだたくさんいるという現実があり、日本で何ん自由なく学ぶ環境を与えられていることに感謝しなければならないということに気づいたことが大きかった。フィリピンの大学生は皆それを自覚しており、学修へ臨む姿勢は日本の学生とは比べものにならないほど真剣であった。また、途上国であるフィリピンの若者からは未来に向けてのパワーを強く感じた。将来に希望をもって熱心に勉強するその姿は、私にとって大きな刺激となった。

今回の留学を終えて、日本というのは世界の中の本当に小さな一つの国であることを認識し、自分の中で世界が広がったことを実感している。自分の人生が日本の中だけで完結してしまうのはつまらないと思うため、今回の経験をきっかけに、この広い世界全体で生きていきたいと考える。また日本の良さ、悪さも様々な気づくことができたので、そういったことを周りに発信できればよいと思っている。



寮のメンバー↑



学部対抗バレーボールマッチ↑

スペイン、フランスからの留学生との旅。

バナウェにある世界遺産のライステラスの前で →

